



令和5年度



鹿部町長 盛田 昌彦

町政執行方針

令和5年第1回鹿部町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行に対する所信と基本方針を申し上げます。

この新議場において、はじめての所信表明から、1年が経ちました。この間、新型コロナウイルス感染症

やロシアによるウクライナ侵攻など暗いニュースが続いておりましたが、先日、

鹿部町出身選手で初のオリンピック金メダリスト、北海道日本ハムファイターズの伊藤大海投手が、今度はWBCワールドベースボー

ルクラシック日本代表に選ばれました。大変誇らしく、私たち鹿部町民に勇気と希望を与えてくれる明るいニュースとなりました。

日本チームのプールBは本日から試合が始まります。伊藤大海投手のご活躍を心からご期待申し上げます。

私は、町長就任以来、ただひたすらに、ふるさと「鹿部町」がいつまでも、

笑顔あふれ、光り輝くまちであり続けられるよう、議員皆様や職員皆様のご高配、ご協力のもとより、町民皆様の小さな気付きや想いに寄り添い、様々な課題に真正面から向き合って参りました。

当然、その取り組みすべてが正解だったとは考えておりませんが、これまで、

誰も経験したことのない人口減少社会や環境変化の中、私たちの前に道などなく、私たちの歩みそのまま新たな道となる、まさに正解のない時代に、町民皆様を

乗せた船の舵をとらなければならぬ責任の重さをひしひしと感じながら、私の責任において、私たちのすべてで町政運営を進めて参りました。

先日、繁栄する都市の3つの条件というものを目にしました。1つはイノベーション。2つ目は多様性。

3つ目は寛容性であります。

自分とは違う様々な方々を受け入れられる寛容性がある所には、多様性が生まれ、多様性が生まれるとはじめて、イノベーションが起こる。そして、このイノベーションこそが繁栄の鍵であると。

イノベーションとは、一般的には新機軸や革新、新結合を意味し、まちづくりでは「新たな価値の創造」を意味することもあります。

また、社会全体に大きな変革をもたらすといった意味でも使われます。つまり繁栄するには、新たな価値を生み、変わり続けなければならぬ。

しかし、革新や変革には、必ずリスクやコストがつきものであります。そのリスクやコストを乗り越えなければ、繁栄や成長はないということでありました。

私は2期目のいわゆる公約といたしまして「水産業、地元企業を守り抜く」「子ど

も、お年寄りの幸せ」「福祉によるまちづくり」。この3つを掲げさせていただきました。

令和5年度もこの3つの公約実現に向けて、まずは、藻場の造成や漁場整備、つくり守り育てる漁業への挑

戦など、環境整備をはじめ、産業振興においては、産業連携ビジョンに記されてお

ります「今こそ自らの足元を見つめなおし、地域に眠る資源を磨き、ビジネスとして結実させるという内発

型の産業振興施策が求められ、特に基幹産業である漁業、水産加工業の再生こそ、今後の生き残りに向けた唯一の戦略である」という表現のとおり、方針1の海と

山の資源を生かす付加価値の高い産業づくり、方針2の人づくり、地域づくり、起業支援の推進による「食産業」の担い手づくり、方針

3の鹿部ならではの納めなしの構築に基づいた、交